

のっこみグロ攻略

後半戦を 考える



南のつりアドバイザー

野間辰美

今季のクロ釣りは、南九州エリアでは好調だったのではないでしょう。釣具屋さんなどで聞く情報では、天候さえよければこの釣り場でも「よく釣れているヨ！」ということでも久々に明るいニュース。テンションも自然と上がってきます。

しかし、徐々に水温が下がりがクロの抱卵具合も進んで来ると喰いが悪くなるというか渋くなつて、なかなか思うように釣れなくなつて来ます。

また、これから2月末から3月にかけては水温が一年で最も下がる時期です。水温の低い時は13度前後、高い時でも15度台位。当然クロがそう簡単に浮いてくるとは考えにくいです。

それでもクロを釣りたいと、試行錯誤を繰り返して何とか釣りを組み立てていかないといけないので、私なりの攻略法を書いてみましたので参考にして下さい。

釣り場選びポイント

釣り場に関しては、特にどこがいいということはないと思います。ただ実績のある釣り場がお薦めです。それと通い慣れた磯、そして天候を見て、例えば北西風の強い時は東岸エリア、逆に東岸の強い時は西岸エリアに釣行するのがいいでしょう。

私の場合、冬型の気圧配置で北岸の風が強い時は大隅半島東岸に、風が治まったりする時は南薩方面に行くことが多いです。釣り場は天候を見て釣具屋さん

などと相談しながら場所を決めると間違いないです(釣具屋さんの情報はしつかり聞くこと)。

次にポイントですが、釣り場としては比較的に水深の浅い釣り場約10m前後)がお薦め。クロが産卵に寄つて来やすいのとクロの主食となる海藻や海苔等が豊富にあるからです。また、沈み瀬が点在していたり沈み岩等が敷詰められている場所やゴロタ場。あとは磯際、海溝等もいいポイントですが、潮が動いていない時、もしくは流れる先に海溝があるとベストポイントになります。

潮の流れで考えると、潮の合流点(例えばサラシの切れ目、水道の出口、ワンドからの合流点)を探します。合流点が無い時は潮の「ヨドミ」を釣ると案外釣れたりします。この「ヨドミ」は潮が止まっているというか、流れていないように見えますが底近くは弱い流れが複雑に動いている所が多いです。

ポイント例『サラシの合流点』

